上江洲義秀

2016 3月命ぬ琉球② 光話

「肉体に死んで 永遠の命をいきる」

YOSHIHIDE UEZU KOUWA SELECT 2016.3.22

肉の扉を閉じてこそ、無限の至福に入れる

肉の扉を閉じてこそ、無限の至福に入れる。
「私、肉体」と錯覚で生きているかぎり、至福なんてありません。
肉体を我として錯覚で生きるかぎり、
常に外側に振り回され生きることほかにありません。
外に生きるかぎり、至福や喜びなんて絶対に訪れることはない。
肉の扉を閉じるとは、
「我、肉体にあらず、我、命なり」。
命という本質を理解してこそ、
そこに真の至福が、あなた方の永遠のものとしてつかめることを知ってもらいたい。
外を見、外を感じ、外に生きるかぎり、
常に「結果」に振り回され、混乱することほかにないといいます。
あの人に言われ、この者に言われ、
あの人から何と言われた、この人が何と言う、どう表現した、
常に外、外、外に振り回されて、混乱して生きることほかにないといいます。
肉に死んでこそ、とは肉体を殺せという意味ではありません。
「我、肉体にあらず、我、命なり」という自覚をもつことです。
肉体自ら生きることができるでしょうか。
肉体自ら生きていません。
肉体は、命に生かされしもの。
肉体自らは無なり、
肉体自らはゼロなり、
肉体自らは、何の力も知恵も愛もありません。

肉体をとおして愛を、肉体をとおして力を、肉体をとおして知恵を示しているのは、命そのもの。

皆さん、命を追求してみてください。
命は、ただ生かしているだけではない。
命そのものが、知恵であり、力であり、愛であることを皆さんは見い出すでしょう。
命は花々を咲きほこらし、すべてを生かしているだけではない。
命そのものが無限力であることを知ってもらいたい。
命を追求したとき、
命が知恵であり、力であり、愛であり、光であることを私は見い出しました。
だから本来は、「我、命なり」という表現は、もう想像もできぬ無限なんです。
あなた方が命を自覚して表現することができたとき、必要なときに、必要な場において、必要なものを、いつでも引き出して使い生かすことができるだろうと。
無知・無能・無力の人生を終えるべき、いと小さき弱きあなた方ではありません。
ひとりびとりが本質として、無限力であることを知らねばなりません。
命と分離して生きているという錯覚が、無力にしていることを知ってもらいたい。
皆さん、よく見てみてください。
無知・無力・迷いの人生を終えていく人間は、命と分離して生きています。
本質と分離して生きています。

YOSHIHIDE UEZU SCHOOL A SELECT

大海から立ち上がった波は
その大海を認めさえすれば、無限力をもつんです

昨日も話したとおり、
大海から立ち上がっている波が、私は波である、という分離をしているかぎり、大海の能力を示すことはできません。
大海から立ち上がった波は、
その大海を認めさえすれば、無限力をもつんです。
あなた方ひとりびとりが、無限から分離した、いと小さき個人的な我ではなく、ひとりびとりが、
無限の一部であり、宇宙の一部であり、すべての一部であり、全体の一部であることを皆さん自覚してみてください。
無限を認めて、無限力。
宇宙を認めて、宇宙力。
全体を認めて、全体の力。
すべてを認めて、すべての力をもつことができるだろうと。
だから、外から外からその能力をつかもうとする物乞いになってはなりません。

今、ひとりびとりが、
無限の知恵、無限の力、無限の愛、
無限のすべての所有者であることを知ってもらいたい。
物乞いで生きるかぎり、我々は、
決して、泉から宝庫から湧き出てくることは不可能です。

愛を得ようとする者、愛を失い、愛を放つ者、愛を得る。
命を得ようとする者、命を失い、命を放つ者、命を得る。

永遠に死なない者は、
常に命から湧き出る知恵も、力も、愛も、光も、
常に与え尽くし生きるがゆえに、死ぬことがないんです。

私だけの愛、私だけの命を囲ってみてください。
川を流れる水も、せき止めれば腐るんです。
だから金も、金持ちのみに留めるならば、血液が汚れるのと一緒で、腐ってしまうんです。
滞ってしまうんです。
全体が、世界が、おかしくなります。
川を流れる水も、せき止めてはなりません。
泉から、宝庫から、こんこんと湧き出てきます。
「持てる者さらに多く与えられ、 持てぬ者は持っている物さえも奪われる」。
じゃあ、持てる者を見てみてください。
すべての僕（しもべ）となって働くゆえに、
働き手となって、僕として表現するがゆえに、
無限に満たされて生きることができるのではないでしょうか。

持てる者はさらに多く与えられ、
持てぬ者は持っているものさえも奪われる

「持てる者さらに多く与えられ、持てぬ者は持っている物さえ奪われる」
というたとえがあります。
ある金持ちが、町に王位の位を得るために出かけます。
出かける前に10名の使用人を呼んで、
ひとりびとりに１００万円なり1千万円なり手渡して、
「私が王位を得て帰ってくるまでには、そのお金を元にもっと増やして

ほしい」と、同じように平等に与えました。
その金持ちが王位の位を得て帰ってきて、10名の使用人を呼びました。
最初に呼ばれた者に聞きました。
「あなたはそのお金を元に、どれだけ増やすことができたのか？」と。
同じ１００万円与えられて、「1千万円増やしました」と。
「よくやってくれた、10倍増やした。よくやってくれた」と。
「あなたには10の町を治めさせてあげよう。」と。
二番目に呼ばれた使用人は、「5倍増やしました。」と。
「あなたには5つの町を治めさせてあげよう。」と。
十番目、最後に呼ばれた者は、「1円も増やしていません」と言います。
「なぜ、増やさなかったのか？」とその金持ちが聞くと、
「今は盗人もいれば、嘘をつく者もいるし、詐欺師もいる。だからそのお金で商売して、だまされてはいけないから、それで私は増やすことがなかった」と言います。
「じゃあ、なぜ銀行に預けなかった？　銀行に預けさえすれば、利息で増やすことができたではないのか。あなたに与えたその１００万円なり1千万円なりを10倍増やした最初の者にやれ」とその金持ちに言われました。
「なぜ？　あの者は、とうに持ちすぎているではないのか」と答えました。
それが、
「持てる者はさらに多く与えられ、持てぬ者は持っているものさえも奪われる」。

あなた方も兄弟姉妹のために、僕となって働けないならば、
働き手としてすべての幸せのために僕となることができぬならば、
皆さんの能力もすべて滞っていくだろうと。
使いたくても、その泉・宝庫は閉ざされて、湧き出ることはないだろうと。
聖人といわれた方々に、なぜ無限力を顕現することができたのか。

「常に、与えて与え尽くし生きた結果」であることを知ってもらいたい。
私がすべてに不自由したことのない理由は、
「愛するは愛されるよりも美しく、すべてを幸せにする」。
必要なときに、必要において、必要な状態を、私は顕現するがゆえに、
本質は、常に常にこの伝導体をとおして顕現します。
肉体は愛を、知恵を、力を、光を、せき止めるための表現体であってはなりません。
無限の知恵、無限の力、無限の愛を、光を、
常に兄弟姉妹のために、常に循環させねばなりません。

「我、この世の闇を照らす光なり。我、この大宇宙を照らす光なり」。
我、無限の愛で、すべてのすべてを包み込めるあなた方であってほしい。
ひとりびとりがその境地に至れば、今、即、平和なんです。
分離で生きるかぎり、人間は戦い殺し合わねばなりません。
この地球を、輝く地球とするか、あるいは、真っ黒に汚れた曇った地球にするかは、あなた方の意識次第、意識一つ。

すべてを支配するのは万物の霊長たる人間

たとえば、今、この地球に生きている70億の人間の「総合意識」というものがあります。
集合意識といいます。
その結果が、この地球なんです。
ということは、この地球の天変地異・天候異変、毎日さまざまな事件・事故のその結果は、集合意識が、あるいは総合意識が、ネガティブであるということを知らねばなりません。
ひとりびとりが、愛に目覚め生きることができぬかぎり、
地球も輝くことは不可能なんです。

あなた方の輝きが、すべての輝きなんです。

すべてを支配するのは、万物の霊長たる人間であることを知ってもらいたい。

動物や鉱物や植物がもがいても、地球を輝かすまでは表現できません。

美しく咲きほこることはできます、それを越えた表現はできません。

本性として、動物は表現することはできても、それを越えることはできません。

鉱物は親和力として表現することはできても、その一線を越えることはできないんです。

しかし万物の霊長たる人間は、尽きることもない、限界のない、すべての面において無限を示すことができることを知ってもらいたい。

無限を示すことができるにもかかわらず、小さな小さなことにもう毎日とらわれ、振り回されて混乱し、苦しみ生きる兄弟姉妹のなんて愛おしいものか。

しかし、それが皆さんの学びであるならば、これはいたしかたがない。

早くこの現象結果の世界で、遊び疲れてこそ、わがもとに帰ってくることを 私は知ってます。

遊び疲れてないゆえに、帰ってこようとしないんです。

「遊び疲れた者よ、わがもとに帰ってきなさい」と、いつも無限の翼を広げて、あなた方を待っているんです。

あの人は帰ってきてほしい、この人は帰ってきてほしくない、そのような分離・差別は、無限という根源のなかにないことを知ってもらいたい。

あなた方が一歩近づきさえすれば、神はあなた方に、百歩も近づく

去る者は、追いません。
どんな邪悪なカルマを背負っていても、来る者を拒むことはありません。
それ「去る者、追わず、来る者、拒まず」といいます。
ヒトラーとて、神は常に無限の翼に抱き入れたいと、
常に常に愛を送り続けていることを知らねばなりません。
帰る、帰らないは、あなた方次第であって、誰のせいでもありません。
神に背を向けて、逃げ隠れしているのはあなた方であって、
光を拒んでるのは、あなた方自身であることを知ってもらいたい。
常に光に背を向けずに、正面向かって皆さんは、進みきてほしい。

わが愛する子どもたちよ。
なぜ光に背を向けようとするのか。
なぜ愛を否定するのか。
遊び疲れたならば、わがもとに帰ってきなさい、と。
まだこの結果というニセモノの世界で、遊び足りないのか、
まだこの世を教師に学び足りないのか、と。
熟しているならば、光から顔をそむけずに、しっかりと一歩一段歩み寄ってきてほしい。
あなた方が一歩近づきさえすれば、神はあなた方に、百歩も近づくということを知らねばなりません。
神はいつもあなた方を抱きしめようとするけど、あなた方自身で背を向けて、逃げ隠れしていることを知らねばなりません。
あなた方が嫌う誰であっても、あなた方が嫌がる一物だって、
すべてあなた方の兄弟姉妹であり、命において一体であることを知らね

ばなりません。
隠れる場所があると思うならば、隠れてみてください。
そこ、そのものに、私は常に皆さんのなかにあって、そこから常に愛をささやきかけていることを知ってもらいたい。
神我なる私と、神我にしてあなた方は、即、一体であることを知ってもらいたい。
それ以上、それ以下、何ものも存在していないことを知ってもらいたい。
ただあなた方は、私のまとっているさまざまな衣装を見て、私と違うゆえに、分離という錯覚をしていることほかにありません。
そのすべての私の化身を「神の化身」と説きます。
なぜならば化身とは、ばける身（み）と書きます。
質量はさまざまなカタチをとって皆さんの前にあらわれるゆえに、
「化身」と書くんです。
あるときは動物という衣装を見せ、
あるときは鉱物という衣装をつけて皆さんの前にあらわれ、
すべてのすべてが私のまとっている仮の姿であり、仮の衣装なんです。
たとえばここに一万個の衣装があっても、
その衣装を脱げば、すべてをまとっていたのは、すべての衣装を着ていたのは、
私、一元……私しかいないんです。
私は、三十何年もわが子たちの前で、
言葉を変え、表現を変えながら、何十年皆さんの前に…。

愛おしき愛おしきわが子たちよ。
なぜ私に正面向かって歩み寄ってこないのか。
あなた方ひとりびとりを抱きしめて、無限の喜び、幸せ・至福の食卓にあなた方をつけようとしてるのに、なぜ与えられた小さな小さなその「我（が）」というものに、神我なる本質が使うべきその感情や五感に支配

されて、
まだ苦しみ足りないのか。
まだ悩み足りないのか。
今、即、目の前に無限の喜びが供えられて、今、あなた方の目の前に置かれていることを皆さんしっかりと、それを目を見開いて見てほしい。

常に正面に立ち向かって、しっかりと目を向けてみてください。
無限光、輝く本質である命ほかに、何も存在しないことを知ります。
どこに目を向けても、前後・左右にどこに向いても、
愛として完全のみしか実在していないことを知ってもらいたい。
愛のなかに生かされて、なぜ憎しみが、なぜ怒りが、なぜ嫉妬が、
なぜ分離・差別が…。
ないものに力を与えて振り回されるあなた方であってはなりません。
ないものは、いつかはいつかは消えゆかねばなりません。

ひとりびとりが一元の一部
根源は一元であり完全意識

真実はただ一つ。
「すべてのすべてあってあるものを創造し、建設し生かしたる無限にして完全意識のみが実在」。
それを神と語ります。それを仏といいます。
それを命といいます。それを真理と説きます。
その言葉をどう説いても、その本質は無形無双、原因なき原因として一体であることを知ってもらいたい。
一元のほかに何も実在しないのに、皆さんは自らして何次元、何次元、何次元を作り上げて、そこに苦しみ生きるあなた方。
本来は「我は神なり、すべては神なり」とする神性意識ほかに何も存在

しません。
それを潜在意識だ、顕在意識だ、表面意識だ、と、
どこに何が存在しましょうか。
一次元、二次元、三次元と表現しているのは、ただバイブレーション、
波動状態を示していることほかにありません。
一元のなかの一部なんです。
どのように言葉をとおして説明していても、その根源に実在しているの
は、一元のみなんです。
皆さんひとりびとりが、一元なるものが、あなた方の美しき顕現のため
に、一にして多身なるものを創造し、生かしているだけにしかすぎぬこ
とを知ってもらいたい。
ひとりびとりが、一元の一部なんです。
即、根源は一元なんです。
一元は、完全意識なんです。
愛以外には何も実在しないんです。
だから皆さんが、当たり前のように、当たり前のことを表現できぬ結果
が、「苦しみ」であることを知ってもらいたい。
当たり前のことを、当たり前のように表現している者に、苦しんでいる
人間なんて世界にひとりもいません。

それを皆さんは、「聖人」といっているではないでしょうか。
単なる人ではなく、無限力に目覚めた人を、聖人といいます。
「我、愛なり、我、知恵なり、我、力なり、我、光なり」。
その意識状態に至っている人を皆さん、聖人といいます。
聖(ひじり)という字を書いて、聖人と書きます。
聖なる者とは、無限力を携えた者と書くんです。
毎年、年が明ければ、肉体年齢20歳迎えて、日本では成人式をします。
わたしが南米から帰ってきて、もう約40年、

この肉体年齢20歳迎えての成人式を見てきたけど、ひとりだって本当の成人（聖人）を迎えている者を見たことはありません。
本当の聖なる者となれば、そこにはもう個人ごとの意識なんてありません。
すべてその伝導体は、
全体の幸せ、全体の喜び、全体の平和のために、使い生かしていることがはっきり見えます。

さまざまな国々が、島々が、
手を取り合って調和して一つの地球なんです

じゃあ、自分さえ良ければいい、自分の家庭さえ守っていればいい、
自分の国さえ豊かであればいい、
そのような利己主義で生きている者に、目覚めた者がいるでしょうか。
偽我は利己主義です。
神我は非利己主義なんです。
常に一瞬一瞬の思いは、常に全体の思いなんです。
あなた方をどのように幸せの道へと、喜び・至福へ導くことができるか以外に、考える者はいません。思いはありません。
あなた方の幸せが、わが幸せ。
あなた方の喜びが、わが喜び。
あなた方の苦しみが、わが苦しみ。
と分かち合います。
「どうでもいい」と、この現象世界を放っておいているのではありません。
今は肉体をもたぬ聖人の方々とて、常にこの地球のために、働き働き生きていることを知らねばなりません。
なぜ地球のために働きましょうか。
あなた方のこの肉体、この人体とて、不必要なものと皆さんが切り捨て

れば、もうそれは人体ではなくなります。
すべての臓器が調和し合って、人体なんです。
この地球も、
さまざまな国々が、島々が手を取り合って調和して一つの地球なんです。
一つ一つの国々が、相手の調和を乱して、勝手なことをして皆さん生きてみてください。
とうとう全体の崩壊につながるだろうと。

愛の波動も、破壊の波動も、
必ず己自身にはね返ってくる

あの北朝鮮から放たれるミサイルが、どこかの国を破壊したら、
必ずその破壊の波動は、自らに影響し合うということを知ってもらいたい。
愛の波動も、破壊の波動も、
地球を、宇宙を巡り周れば、必ず己自身にはね返ってくること。
池に向かって石を投げてみてください。投げた石は、波紋を広げます。
広がった波紋は、猛スピードでどこに返ってくるか。
その石にはね返ってきます。
このように自然は、あなた方にもうすでに教えているんです。
思いや、言葉や、表現から放つ波動は、良きにしろ悪きにしろ、
すべて投げた本人にはね返ってくるということを教えています。
はね返ってこぬものは、一物もありません。
良きも悪きも、すべてのすべて 蒔いた本人が刈り取らねばなりません。

蒔いた種は 自ら刈り取る。
愛の種を蒔く者は、
常に喜び、幸せ・至福で刈り取っていきます。

うらみや、怒りや、嫉妬の種を蒔くものは、
必ず苦しみとして、悩みとして、
己自身が刈り取るということを知ってもらいたい。

あなた方ひとりびとりは、
良き送信機であるとともに、良き受信機とならねばなりません。
迷った幽界に送信する者は、
その憑依を受けて苦しみもがいてきたことを、皆さんしっかりと見てきたではないでしょうか。
その憑依を受けている者に私は何回も何百、何千回も言います、何万回でも…
「この者の肉体から去りなさい」と言うならば、
「私が勝手に憑いたんではない。この者に呼ばれて私は来ている」と言います。
それは、己が放った送信に、受信を受けているだけにしかすぎません。
このような受信を受けるあなた方ではなく、
常に無限の愛として、無限の知恵として、力として、受信を受けられるあなた方になってもらいたい。
なら皆さん自身の送信次第で、受信が決まるではないでしょうか。
愛に送信して、まったく逆から受信を受けることはありません。
破壊的なほうに送信して、愛のほうから受信を受けるはずはありません。
送信と受信は一体なんです。送信、即、受信なんです。
蒔いた種と、刈り取る実とで、分離して存在しているのではありません。
じゃあ 皆さんの、今日一瞬一瞬の種蒔きとは…。
「身口意」をとおして皆さんは、種蒔きをしています。
「思い、言葉、表現」の、身口意で種蒔きをしていることを知ってもらいたい。
誰が傷つこうが、誰が苦しもうが、誰が不愉快な思いをしようが、

やりたい放題、思いたい放題、語りたい放題で、皆さん種を蒔いてみてください。
誰が刈り取りましょうか。
愛の種を蒔ける、あなた方になってもらいたい。
常にすべてのために、愛の送信のできるあなた方になってもらいたい。
その法則は、誰も崩せません。
その法則こそが宗教であり、神であり、真理であることを知ってもらいたい。
私にとって宗教とは、
分離して殺し合っていることそのものが宗教ではありません。
あれが神だ、これが神だ、我々の宗教が、という
分離していることが宗教であってはなりません。
宗教とは「法則」なんです。
法則とは「神」なんです。
で、万物の本質である「命」なんです。
ということは 皆さんが今まで見てきた宗教・宗派、
皆さんが言葉に出した真理だ、命だ、神だというのは、すべて法則そのものであったことを知ってもらいたい。
法則を無視して生きるがゆえに人間は、常に分離で戦い、殺し合っていることを知ってもらいたい。
宗教は妄信・狂信、偶像崇拝する対象物ではありません。
大きな宮殿や神殿や教会をたてまつって、妄信・狂信させる場所ではありません。

宗教とは、無限の教え、全体の教え、すべての教え

宗教とは、
「無限の教え、全体の教え、すべての教え」と書いて宗教と読むんです。
宗（むね）とは、無限であり、全体であり、すべてを意味して、宗（むね）なんです。
それは分離で生きることではなく、
全体を我として、我を全体として、すべての幸せのために、その法則を教え説いていくのが宗教であることを知ってもらいたい。

ひとりでも殺せば神に近づける。
間違った宗教がそのようなことを生み出していることを知ってもらいたい。
ひとりでも破壊したほうが神に喜ばれる。
万物を創造した神である親は、虫一匹だって殺し合うことを望んではいません。
すべてとの共存・共栄・共生が、
神の御心、親の御心ということを知らねばなりません。
共存とは、共に存在し合う。
共栄とは、共に栄え合う。
共生とは、ひとつの命を喜び生きることを、
共存・共栄・共生というんです。
間違った宗教があなた方に「都合悪いからこれは殺せ」で、
殺して生きようとするから、自分も死ぬんです。
我々は、殺して生きようではありません。
すべてを生かして生きよう、に変わらねばなりません。

だから、私が仕事を失っても、ただ一つだけできない仕事があると言います。
殺す仕事。〔注1〕
「汝（なんじ）、殺すことなかれ」。
殺して生きよう、は 必ず自分自身が破壊されることを知ってもらいたい。
我々は、生かして生きよう、と生きねばなりません。

私の体験からたとえて言うならば、
私が1千万円かいくらかのお金を貸して、友だちが会社を設立しました。
もう倒産寸前、もう仕事失敗。
で、私に1千万円を借りて、1円も返せないことに非常に苦しんでいました。しかし、いつも私が光話で説いているように、
私はあなた方に貸したお金を、1円だって戻ってほしいと望んだことは一度もありません。
その金をとおして成功してほしい。これが私の思いなんです。
で、もう会社がうまくいかずに、1円も返せないことに苦しんでる友だちに、
逆に私がお金を借りて、私はその方にまた1千万円貸しました。
「あなたも、会社は自分さえ儲ければいいではなく、相手を生かして生きよう、に変わらねばならない」。
そうアドバイスをした後のその仕事は、どんどん成功しました。
上手くいきました。
私は2千万貸しました。
最初は私の貯金したお金。
で、二回目はもうないですから、また1千万円を借りて2千万。
しかしその友だちは成功したことにおいて、私に、5千万円という金を返そうとしました。

〔注1〕
屠殺（とさつ）のこと。家畜を殺し、肉にする仕事のこと。また別の光話では、罪のない牛を殺す闘牛士もよくないと語られている。

一旦、私の手元を離れた金は、私のものではない。
あなた自身が有意義に使う金である、と私は返しました。

この世の物質は、金含めて、
すべて兄弟姉妹と共存・共栄・共生し、すべてを幸せのために働かせる道具であることを知らねばなりません。
金や物や物質のために殺し合う今の時代を、末法（まっぽう）というんです。
すべての道具を、兄弟姉妹の幸せのために生かせるその時代を、黄金時代というんです。
黄金時代は、金・銀という物質が豊かになることではありません。
ひとりびとりが無限の愛に満たされていく時代を、黄金時代といいます。

沖縄の歌にも、
「金や物や物質のために、決して美しい心を汚してはならぬ」とあります。
私はそれを「愛守心」といいます。
愛の心は、この世の何ものにも汚させてはいけない、汚してはいけぬ、ということなんです。
汚せば汚すほど、神のメッセージ、神の姿が遠ざかっていくんです。
だから我々は、カタチ作った宗教を、拝んだり祈ったりする必要はありません。
自らを磨きさえすれば、
神は真実の姿を、あなた方の前に映し見せてくれるんです。
私は、皆さんひとりびとりに神という本質が見えます。
いつでもいつでも、すべてのなかに神という実体を見ます。

思い癖、悪習を徹底して克服していくこと
これこそ難行苦行といいます

じゃあ、私は一度だってキリスト教、仏教、ヒンドゥー教、ユダヤ教、密教、で、1時間だって、一瞬だって、1秒だって、それを学んだことがありましょうか。
本や書物を私は開いたこともありません。
聖書・聖典・仏典なるものも、どの宗教も私は学んだこともありません。
肉体もった先生を先生として、私は学んだこともありません。
じゃあ、難行苦行、滝行・断食で神が見えるようになったのか。
難行苦行、滝行・断食したこともありません。
この上江洲にはなぜ神が見えるのか。

「身口意」を徹底して修行しました。
修行というならば、難行苦行、滝行・断食ではなく、
難行苦行、悟りにあらず、ということを知ってもらいたい。
もし私に難行苦行というならば、
幾転生という人生の過程のなかで背負ってきた思い癖、悪習、
それを徹底して克服していくこと。
これこそ難行苦行といいます。
一瞬一瞬の自分の思いが正されているのか。
言葉が正されているのか。
表現が正されているのか。

それを、しっかりとしっかりと愛によって制することが、制御であり、
それこそを真理といいます。

真理とは、人間改造なんです。
真理とは、自己改善なんです。
思いをとおして、言葉をとおして、表現をとおして、
誰ひとり不愉快な思いをさせることはなかったか。
誰ひとり傷つけることはなかったか。
誰を苦しめることはなかったか。
徹底してそれをしていくうちに、とうとうその我（が）という雲が、愛によって吹き飛ばされたとき、神はわたしに真の御姿を見せてくれたんです。
御姿といっても、カタチで見えているのではありません。
我は神なり。
神とは、万物を生かす命なり。
命とは、この肉の目で映し見ることもできない無形無双の原因なき原因、として、はっきり私にその御姿を映し見せたんです。
神は皆さんの肉の目でとらえられるものではありません。
触れてつかめるものではありません。
無限意識のなかに、無限として、そこに実在してることを、
皆さんもいつかはっきり体験するときがくるでしょう。
そのとき皆さんは、
実在するもの、実際にあるもの。
実在、実際にあるものは、見ることもできない、触ることもできない、
無形無双の原因のない原因であると、皆さんはいつか体験するでしょう。

「あるもの」とは
「ないもの」とは

これを本当の「あるもの」というんです。
皆さんは「あるもの」は見ていません。
皆さんは「ニセモノ」は見てます。
ニセモノを見て「ある」という錯覚に生きているがゆえに、
皆さんは苦しみ生きているんです。
本当に「あるもの」を見ている者が、苦しむはずはありません。
だからあなた方がどう表現していても、私に苦しみはありません。
「ないもの」で皆さんは踊り踊っていることであって、それに振り回されて混乱する者に、真に「あるもの」を見えた者がいるでしょうか。
皆さんは、「ないもの」に苦しんでることを知らねばなりません。
「あるもの」とは、
無形無双の原因のない原因が本当の「あるもの」。
この現象の世界で皆さんを導くむずかしさは、ここにあります。
皆さんは見えるから「ある」、触れるから「ある」と言うんです。
逆さまに生きているがゆえに。
その逆さまから、私は必死に、もとのあなた方に戻そうとしているんです。
皆さんの目には、「ないもの」は見えています。
「あるもの」は、見えていません。
「あるもの」が見えてるならば、もう皆さん、根源に至ってるんです。

この世界は、ニセモノは本物のように見える。
本物がニセモノのように見える。
「ないもの」は見える。

本当に「あるもの」は見えないゆえに、皆さんは混乱してるんです。
私の友だちが、何十年経ってもそれが理解できない。
あるから見えるんであって、見えないものがどうして「ある」のか、と言います。

よく科学者が、肩書きをもった偉い方が、
私を試そうとこのセミナーに参加する方々がいます。
見えないものこそが「あるもの」と説くなら、
「見えるからあるのではないのか」と。
「見えるものがすべてではないのか」と。
最初セミナーに来るときは、肩で風切って「私こそは偉いもの」と威張って来ます。
で、真理を理解することにおいて小さくなります。
後は、土下座して去っていく方もいます。私は、
「じゃあ、あなたは見えないものは信じないと言うけど、あなたはただこの世の食するものに生かされてるのか。ご飯やパンや肉や野菜や果物や、食するものに生かされてるのか。食する前にあなたを生かしてるのは、命というその本質ではないのか。じゃあ、あなたは息を吸って生きるというけど、あなたにはその息が見えるのか」と言います。

見えないものなくして、見える世界は存在しません。
すべての存在の根源は、見えないものであることを知らねばなりません。
見えないものが、己を顕現するためにまとっているこの衣装という「結果」を見て「いる」、「ある」、と錯覚しているだけにしかすぎません。
ということは、見えないものこそが、本当に「あるもの」なんです。
あなた方の目に映し見ているものは、
それは映し出された影であって、「ないもの」なんです。
だからこそ仏教では、この世は無常世界。

あなた方がどんなに「ある」、「いる」と言ったって、これは無常。
いつかは虚しく消えゆくもの…無常と書きます。
常（つね）にはないと書いて、無常なんです。
どんなにあなた方が「いる」、「ある」と錯覚しても、この現象の世界は
影・幻・幻影の世界なんです。
ただ「ないもの」が一時（いっとき）、ここに映し出されているだけに
しかすぎません。
見えるものは、すべて見えないものからのあらわれ。
それを内界・外界に説きかえれば、
外界はすべて内界の映し。内界のあらわれにしかすぎません。

自縛を選ぶのか、解脱を選ぶのかは、
皆さんの努力次第

それが理解できたとき、皆さんは今生こそ、
今までは、ニセモノに「ある」という錯覚に陥っていたことを知ります。
見えないものこそが、本当に「ある」ということを知ります。
その「あるもの」に生きれたときに皆さんは、
この現象という見える「結果」の世界からの解脱なんです。
「あるもの」に、皆さん縛られているかぎり、これは自縛というんです。
自縛を選ぶのか、解脱を選ぶのかは、皆さんの努力次第。
それはあなた方自身で、歩み進まねばなりません。
だから、私は身近にいる家内や子どもや親兄弟だって、
誰ひとり救うことはできぬ、といいます。
自ら救われたい努力があってこそ、救われること。
だから私が、家内がいびきをかいて寝ているならば、
「さあ、起きて明想しろ」なんて、一度だって起こして明想させたこと
はありません。

どんなに寝ている者を私がたたき起こして、
「さあ、座って明想しよう」と言ったって、もう居眠り。もう船漕いでいます。
中国でも、レンゲ座の姿勢で座って明想しながらウトウトしていることを、船漕ぎというでしょう。
もう、見れば船漕ぎの達人がいっぱいいます。
船を漕いでいるだけならまだいいけど、ヨダレを垂らしてまで船漕いでいます。
それじゃあ、実相はつかめません。
強い意志と、忍耐と、勇気と、努力で進んでこそ、
そこに、無限光があなた方を受け入れるということを知ってもらいたい。
睡魔に耐え、雑念に決して振り回されることなく。
寝ている者をたたき起こして、座って最高な境地に入れるならば、
私が皆、起こします。

明日はない

自らの意志で、
必ずや、今生、何をさておいても、何百・何千・何万回という転生の目的はただ一つ…神との合一。
その意志がないかぎり不可能といいます。
もうこのセミナーで、あの今帰仁から始まったセミナーで、
今日も、朝に昼にこのように皆さんひとりびとりを眺めるけど、
皆、やれそうな顔はしているけど、心はその気になっても、肉体は弱い。
もう明想は大切な行為だと、身口意を正すのは大切な行為だと、
皆さんはここでは思います。
しかし、ここを一歩去ればもう、心はその気になっても肉体は弱い。
「今日は働き疲れた。今日は動いて疲れた。明日からやります」と。

「明日はない」。
実在とはこの一瞬であって、
昨日でもなければ明日でもない、で、未来でもないと私はいいます。
今にやれないものが、できるはずがない。
それが意志力なんです。
それが忍耐であり、勇気であり、力なんです。
睡魔に打ち勝ち、雑念の妨げを克服してこそ、
根源に融合できるということを、はっきり自覚してもらいたい。

ともに学び、ともに根源の世界に帰りいきたいと思います。

ありがとうございました。